

英語科学習指導案

授業日時
授業学級
授業会場
授業者
指導教員

平成30年8月28日(火) 第2校時
3年D組 男子20名 女子20名 計40名
3年D組 (406) 教室

先生

1 単元名 「Unit4 To Our Future Generations」

2 本時の主眼

震災に関して自分に何ができるか単元への願いを持つ場面で、教科書の本文の内容を読み取り、やり方やすべきことを述べる表現が使われる場面や、使い方を確認することを通して、what to~やhow to~などのto不定詞や今までに学んだ表現を用いて、3年D組の避難方法を英語で書くことができる。

3 本時の位置 (全5時間扱い中 第1時)

〈次時〉自分が持っておきたい防災グッズと、その理由を書く。

4 指導上の留意点

- 辞書を授業前にあらかじめ配り、新しい表現が実用であれば自由に使っていいことを伝えておくことで、自分が本当に使いたい単語や表現を調べて表現できるようにする。

5 展 開

過程	学習活動 【学習形態】	予想される生徒の反応や意識 (◎)	教師の支援 (・) と 評価	時間
導入	1 教師の英語を聞いたり、震災に関する写真や映像を見ることを通して、このUnitに願いを持つ。 【全体】	◎防災グッズなんか家にあつたかな。 ◎懐中電灯は持ってるし、水も備えてあつた気がする。 ◎東日本大震災からもうだいぶ月日は経つのに、いまだに復興が追い付いていなくて、自分の故郷や自分の家で暮らせない人も多くいるのだな。 ◎東日本の復興のために募金を集めているというのは色々なところで聞くな。 ◎アーティストが被災者たちを勇気づけたり、募金を促すためにライブを行ったこともあるのか。 ◎震災の傷が癒えないのに、もう次の震災が起り兼ねないのか。 ◎今度は長野県でも多くの被害が出るかもしれないのか。怖いな。 ◎私にも何かできるかな。	・防災グッズの写真を提示したり、復興のために活動する人々や活動内容を紹介し、英語でやり取りすることで、震災に対する物事の継承は様々な形で行われていることに気が付くことができるようにする。 ・震災当時の被災地の写真を提示したり、教師の震災当時のエピソードを話、と英語でやり取りすることで、震災を想起できるようにする。 ・震災に対する様々な人々の思いや活動、被災地の過去の様子や現状について話すことで、自分にはどんなことができそうか考え始め、単元の願いをもつことができるようにする	14
	Unit Goal : What can I do?~震災に関して自分は何ができるか考えよう~			
	2 Today's Goal を設定する。 【全体】	◎このままの避難経路では外国人のにはわからないよな。 ◎今日は壁に貼られている災害時の避難の仕方を英語で書くんだな。	・震災に関係のあるもので、普段から目にしているものを英語で表現することで、身近なところにも自分のできることがありそうだという見通しを持つことができるようにする。	1
	Today's Goal: 非常時の3年D組の避難方法を英語で書こう。			

展 開	3 教科書本文の内容を確認する。 ①単語の確認 ②内容の確認 ③表現の確認 ④ペアで本文のやり取りの練習 【全体】	◎避難訓練は英語でこうやって言うのか ◎how や what を文の頭じゃなくて、文の中で使うのか。 ◎to の後は動詞の原形をつけるのか ◎すべきことを言うときには命令文が使われているな。 ◎災害時にどうするべきかっていう内容か。	・読み取りの観点を示してから本文を読み、そのことがどの英文から分かるか全体で確認することで、本文の内容と表現方法を理解することができるようにする。 ・教師の後について読んだり、友と読んだりする練習の時間を十分にとることで、すべきことを説明をする際の表現を理解し、自分でも必要な表現を正しく書けるようにする。	15
	4 やり方やすべきことを説明する表現を使って、避難経路を書く。 【個人】	◎教室から出るって英語でなんて言うんだろ。 ◎教室から出るとか階段を下りるって、普段よくする行動なのに英語で意外と書けないな。 ◎私の書いたもので、読む人はちゃんと逃げるができるかな。	・教師が活動のモデルを示し、全体で表現を考えることで、どのように活動したらよいか理解できるようにする。 ・英語でどのように書いていいかわからず戸惑っている生徒には、英語で書くためのヒントや単語を共に確認することで、生徒たちが書きたいことを英語で書けるようにする。	10
	5 友の書いたものを読み、自分が活動に用いなかった表現を知る。 【全体】	◎集まるじゃなくて、校庭に「行く(go)」でも確かに避難できそうだな。 ◎机の下に隠れたり、火事の際はハンカチで口を覆うこともできるな。	・人によって書き方が違うということを伝えることで、友の書いたものに興味を持って活動できるようにする。 what to~や今までに学んだ表現などを用いて、3年 D 組の避難方法を英語で書くことができているか、ワークシートへの記述から評価する。 ・できていない場合には、教師と一緒に表現を確認したり、参考にできる教科書の文章を示すことで、どのように書けばいいか理解し、自分の考えを書くことができるようにする。	5
終 末	6 振り返りを記入する。 【個人】	◎震災はやはり怖いものだった。 ◎支援をしている人は大勢いそうなのに復興が追いついていなくて残念に思った。 ◎何か次の大きな地震に備えて対策しておかなければならないかもしれないと思った。 ◎震災について私も何かできないかと思った。 ◎もっと震災について知る必要があると思った。	・震災について考えたことやもっと知りたいと思ったことを書くように促すことで、本時の学習の成果を確認したり、後日自分がどんなことを考えたか想起できるようにする。 ・時間があれば何名かの生徒に発言を促し、振り返りを発表してもらうことで、友の考えから学びを深めることができるようにする。	5

6 板書計画

